

れんこんチップス

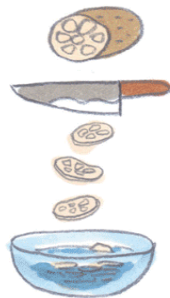
みんな!
ごはんにするよ★

材 料【4人分】

・れんこん	350g	・カレー粉	小1/2
・酢	適量	・塩	小1/3
・小麦粉	適量	・だし粉	小1/2
・揚げ油	適量	・ドライパセリ	適量

①

れんこんは皮を
むいて5mm厚
さに切り、酢水
にさらす。



②

①のれんこんの
水気をふき、
小麦粉をまぶし
たら170℃の油
で揚げる。



③

②の油をよく切
り、温かいうち
にAとボウルでよ
くからめて出来
上がり。



AoI Company ママパパのオンライン 暖和室

こんにちは。AoI Company代表の奥村葵です。
前回ご紹介させていただきました「ママパパのオンライン暖和室」のご報告です。
看護師・助産師の相談対応スタッフが20名になりました。全国各地の主に子育て経験の
スタッフが対応させていただくので、より多くの産後のママにサービスを提供できると思うと
嬉しくて仕方ありません。

先日、産後5ヶ月のママからこんな相談がきました。「Q.赤ちゃんが夜寝なくなったのですが、
何が原因でしょうか。」最近変えたことや授乳量、ほかに気になることとお聞きした結果、
「夜にお腹が空いている」と「少し風邪をひいている」という結論になりました。翌日ママが
病院に連れて行ったところ、鼻炎により薬を処方してもらい、安心のご連絡をいただきました。



絵：べっち



産後相談はこちらへ



AoI Companyでは、病院に相談する前でもないけど、何か気にな
っていること、今医療者に気軽に聞けたらって思うことをLINEで送って
いただければ、7時-0時まで医療者がご相談に乗ります。現在クラウ
ドファンティングで、SNSの運営資金を集めています。本サービスがよ
り多くのママたちに広がり、家族みんなが笑顔で暮らせる世の中を目
指していきたいです。どうぞよろしくお願いいたします。



クラウドファンティングページ

～ 家づくりをきっかけに
「体と心がよろこぶ暮らし」を考える ～

自然素材の 注文住宅 リフォーム 不動産 駿河屋
創業1657年 株式会社 駿河屋

いーにほん おーがにつく

0120-124-029

〒131-0033 東京都墨田区向島1-24-16-1階
https://www.surugaya-life.jp info@surugaya-life.jp



Instagram



facebook



編集後記



お米の収穫が今年も無事に終わりました。
冷夏だったり水不足だったり台風だったり毎年
なにかしら心配事が発生している気がします。
そんな気苦労も考えると農家さんはホントに
大変だなあとつくづく思います。
何はともあれ乾燥して精米してあとひとつきほ
どで美味しいお米が食べられそうです。
一緒に田植えや稲刈りをしてくれた
みなさんにも感謝です。

広報 奥山



2018年11月号

空まめの木



家づくりをきっかけに『体と心がよろこぶ暮らし』を考える建設・不動産会社です

田んぼ体験学校 ～稲刈り～

駿河屋の田んぼ体験学校も今年で9回目！
10月14日、今年も収穫の時期を迎えて参加者
のみなさんと一緒に秋の風を感じながら 稲刈り
をおこないました！



自然体験や食育、そして生産者の苦勞を知るため
におこなっているこのイベントですが、今年もしっかり目
的を果たせました！

雨の中苦勞した田植えから、しっかり育って嬉しい
収穫、そして新米を調理して美味しいご飯。
参加していただいた皆さまにも「貴重な体験でした」
と嬉しいお言葉もいただき我々スタッフも大満足です！
泥まみれになりながらも一生懸命作業してくれた子ど
もたちが印象的でした！途中、虫取りにも夢中にな
っていましたがね(*^^*)



社長のひとりごと

先日の休みは友人とバイクで山形の秘密基地へ行ってきました。この小屋は昔の山の仲間と8名で10年前に
購入したものの。現地はもう稲刈り間近！青空の下、黄金色の絨毯の中を疾走しているような気持ちよさでした！
山間のちょっとひんやりした透明な空気の中、吾妻山や磐梯山の峠道を走り抜け、夕方は温泉につかり、夜は
焚き火を囲んで宴会。友人は電波の入らないところがよほど新鮮だったらしく、「スマホ見ない時間ってどれくら
いぶりだろう」なんて喜んでました。やっぱり自然の中での暮らしはいいですね～♪

僕の山好きは親父譲りですが、先日は親父の90歳
の誕生日で娘息子孫一同11名揃ってお祝いしました。
姪の提案で「一言シール」を渡されて色紙に寄せ書き
のようなものをつくってくれましたが、僕は普段言えな
い事、「親父の息子で良かったよ。駿河屋は任せて」
と書きました。まあ老眼の親父には読めないだろうけど
、素直に書いて良かったです。。。



駿河屋九代目 一樹



現場物語

～現場で日々起こる、あんな事こんな事～

～気持ちを一つに・・・
あざない式に参加して～

家を建てたり リフォームをしたりする時、いろいろな職人さんや業者さんが関わってくれます。そんなみなさんの気持ちを一つにする式为「あざない式」。一緒に縄をあざなう共同作業で結束を強めます。

時代が進んでも、技術が進歩しても家は最終的に人が人の手で気持ちを込めて造るものであってほしい。施主様のお願いを見て「最高の家にしよう!」という想いを全員が持って取り組むことで施主様に喜んでいただける家になる。

私もチームの一員として最高の家にしたい!お客様に喜んでもら



お客様、職人、設計、スタッフのみなで

いたい!という気持ちがあります。高まった、そんなあざない式でした。



工事部 今野渉輝



縄を1本により合わせることを あざなう といひます



より合わされていく縄。3本が1本の太い縄へ。

駿河屋

ユース

南会津「伐倒製材見学会」へ 行ってきました～!

10月20日、21日の一泊で、伐倒製材見学へ行ってきました。東京を出た時は、半袖で歩いている人がいたのに、現地へ着くと気温は一桁!でも、不思議とその寒さが心地良かったです。現地の人に話したら、空気や湿度の違いじゃないかと言っていました。現地の方が東京にくると肌がカサカサになるそうです。だから東北の人はお肌がきれいなんだーと分かりました!

実際に山へ行き木を伐るところを見た時は、林業家さん達は命がけの仕事だと改めて感じる事ができました。木を伐る前に、麓の神社でお参りし、お酒で木を清め木に敬意を表します。木が斜めに倒れていくときは、少し目頭が熱くなりました。木の命をもらっているからこそ、最大限に活かして長く大切に

つかわないといけないと感じました。
詳細は、ブログも書きました
ので読んでくださいね!



秋の紅葉に
郷土料理と温泉!
心も体もリフレッシュ
しました!
(研修なのにいいのかしら?)

樹齢約70年のクリの木

居心地のいい家づくり

～模様替えのすすめ～

位置を変えてみよう!



1. 模様替えする

定期的に模様替えをしてみませんか? 大きなリフォームは大変かもしれませんが、模様替えだと気軽に出来ますし、変えた後で使いづらければ、戻すのも簡単です。テーブルの位置を変えるだけでも家の中の動きが変わって、効率が良くなる場合もあります。家具の位置を変えてみると、普段とは違う雰囲気になるので、いつもの部屋が新鮮に感じられます。

2. インテリアにカラーを取り入れる

家具の場所が変えづらい場合には、インテリアカラーを取り入れてみて下さい。テーマカラーを例えば、グリーンやブルー、ブラウンなどと決めて、小物やクッションカバー、カーテンなどで取り入れると、お部屋の雰囲気が変わります。テーマカラーが決まっていると、雑貨や小物を選ぶときの基

準にもなるのでおすすめです。オシャレなお部屋にしたいならグレーとブラウンの組み合わせなどもいいですね。

3. 間接照明を取り入れる

手軽な模様替えなら、間接照明を取り入れるのもいいでしょう。お部屋の一角に、スタンド式のライトを置くだけで、印象的な空間が作れます。また、ソファのサイドテーブルにはテーブルランプを置いたり、テレビの後ろにライン照明をおくなど、照明1つでも色々な模様替えが楽しめます。



添い寝が大切

本を読んであげて、子供が眠った後、お部屋は別々ですか?
それとも一緒にですか?

◆昔の家事情

昭和の時代はまだ昔風の家が多く、子供部屋などがありませんでした。

そのため、ご飯を食べるのも勉強をするのも同じ部屋。寝る時も家族が一つの部屋に川の字になって寝る、というスタイルが日常でした。日本が高度成長を遂げた昭和後半頃から、いたるところにあった田んぼが埋め立てられ、きれいな家が立ち並び、それぞれに子供部屋が与えられ、家族の生活スタイルも変わって来ました。

◆添い寝は心のよりどころ

昔は当たり前だった川の字での添い寝。今はそれぞれの部屋で寝る生活スタイルですが、子供が小さいうちはやはり一緒に寝てあげたいものですね。特に昼間働いているお母さんは子供と接する時間があまり取れません。子供が寝る前の時間を一緒に過ごし、夜中も目が覚めたら隣にお母さんがいる安心感を与えてあげて下さい。

◆一人寝はいつから?

「もう大きいんだから」と無理に離す必要はありません。子供が満足するまで一緒に寝てあげて下さい。小学校入学を目安にするのが一般的ですが、子供の心は不安定です。入学と同時におねしょが始まる子供もいます。不安を取り除いてあげるのは、やはりお母さんの「添い寝」です。自分から「一人で寝たい」と言い出すまで、ゆっくり時間をかけて一緒に寝てあげましょう。決して無理やり離さないで下さいね。

